

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	コンビニ（経営者）	・今月は「タスポ効果」により来客数が増えているが、来月以降もしばらくは好調に推移する。
		コンビニ（経営者）	・2、3か月はタスポの影響による好調が継続する。
		旅行代理店（従業員）	・団体旅行は上向いていないものの、個人旅行においては先行きの受注が増えてきている。
		住宅販売会社（従業員）	・若年層からの受注が多く、狭小住宅部門の伸びが良くなってきている。
	変わらない	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・高齢者の医療制度や年金などが最大の問題となっており、これらが解決しなければ繁華街に客は集まってこない。調理師や店のマスターなど飲食店関係者も、異口同音に同じようなことを言っている。
		百貨店（売場担当）	・これまでの数か月も販売量、来客数、客の様子などに改善がみられないまま変わらずに推移しているが、各種物価の上昇もあり、今後も改善は見込めない。
		百貨店（経営者）	・当地域では自動車保有率が高水準であり、やはりガソリン高の影響がある。また、原油高に伴う食料品などの値上がりもあり、「今、どうしても必要な物」以外への支出抑制は続く。
		スーパー（経営者）	・これまでの推移からすれば、思ったより買上点数などは下がらない。
		スーパー（店長）	・様々な分野での値上げが断続的に発生するものとみられ、来客数への影響が今後も2、3か月は続く。
		コンビニ（経営者）	・目新しい変化とえば、たばこを店内で買う客が増えたことであるが、2、3か月はこの状態が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・食料品や日用品の値上げにより、衣料品は買い控えという悪い流れが今後も続く。
		衣料品専門店（店長）	・景気の先行きに安心できる材料が見当たらない状況であり、高単価の商品が急に動くようにはならず、現在の状況が続く。
		衣料品専門店（店長）	・今後の景気動向に対する見通しが立たず、客の買い控えは続く。
		家電量販店（店長）	・これからの季節は、気候に左右される部分が大きくなる。オリンピックに関しては、多少の動きはあるにしても、これまでの流れからすれば、それほど大きな盛り上がりは見込めない。
		乗用車販売店（経営者）	・夏の商戦に新型車、イベント車が投入されるが、日用品の物価高で家計の負担が増えるなか、今以上に自動車へ目を向けてもらうのは難しい。
		乗用車販売店（経営者）	・販売量の水準は高くないものの、人気の小型車が好調を維持していること、今月発売の新型車に期待できることなどから、全体的には現状を維持する。
		乗用車販売店（経営者）	・一時的には在庫増、販売増が見込めるが、長期的な視点では懸念が残る。客からは燃料代、食料品、日用雑貨の値上げに伴い、依然として生活優先の声が多く聞かれる。
		住関連専門店（経営者）	・今後も様々な企画を実施しアピールを続けていくものの、先行きの不透明感や政局が不安定なこともあり、客の買い控えは変わらない。前年度の県内住宅建築は20%近いマイナスとなり、最近では若干の持ち直しをみせているものの、厳しい状況はまだ続く。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・6月もガソリンなどの卸価格は大幅な上昇が予想され、需要減退がより一層進む。また、価格転嫁がスムーズに進まなければ、経営リスクが高まる。今後も厳しい経営状況が続く、業界では店舗の再編が進む。
		一般レストラン（スタッフ）	・現状が悪いので、これ以上は悪くならない。
観光型旅館（経営者）	・ネットでの売上は増加傾向であるが、今後はサマープランのチラシ配布や、ラジオCMを追加するなど、地元対策を念入りに実施していく。		
タクシー運転手	・各社とも減車に向けて動き始めているが、その効果はまだみられない。		
通信会社（営業担当）	・原油価格の高騰に伴う物価高で、今後は買い控えが進んでいく。		

	美容室（経営者）	・高齢者の医療制度の問題や高騰を続けるガソリンなど石油製品の価格も、2、3か月後には方向性がみえてくる。それまでは様子見て、現状と変わらずに推移する。
	美容室（経営者）	・原油高、物価高騰が続く以上は、消費者の財布のひもは固くなるだけである。
	美容室（店員）	・ここ2、3か月の売上の伸びは、前年と比べて低くなっており、停滞している状態が続く。
	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・税負担や国費の無駄な支出、原材料の高騰などの問題は基本的には解決されていない。現状維持程度まで地方経済は自己回復したような気配であるが、良くなる材料は無い。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・原材料は高騰しているが、商品への価格転嫁もままならず、苦戦が続く。
	商店街（代表者）	・今のところ売上高、来客数などに前年比で大きな変化はみられていないものの、近隣の時間貸し駐車場ではここ数か月の稼働率が落ちており、将来の来客数の減少につながる心配がある。
	一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・各種商品が値上がりしていること、個人所得が伸び悩んでいること、将来の社会保障費や税金の負担に不安を抱えていることなどの要因が重なり、個人消費は下振れする可能性が一段と高まっている。
	百貨店（売場主任）	・夏物クリアランスセールを迎えるが、買上単価が低いのは変わらず、衝動買いなどは期待できない。
	百貨店（営業担当）	・車社会である地方にとっては、ガソリンの高騰は深刻な問題である。また、北京オリンピックのテレビ観戦などで外出が控えられることも予想され、苦戦は続く。
	スーパー（経営者）	・原油価格の高騰がどこまで続くか分からないという不透明な情勢のなか、この先ガソリン価格を始め物価が下がるとは考えられない。したがって、中元商戦を含め客の購買心理は冷え込んでいく。
	スーパー（店長）	・相次ぐ食料品の値上げに続き、来月もガソリン価格は値上がりになるとの発表があり、消費減退がますます心配になってくる。また、競合各社も売上回復のためチラシ価格強化を行っており、集客アップを図ってきている。
	スーパー（店長）	・食料品、紙類、油関係など、あらゆる商品の値上げにより、客の買い控え、買い回りは顕著になっている。生活が苦しくなっていくのはだれの目にも明らかであるが、景気が良くなる要因は今のところ一つも見当たらない。
	スーパー（店長）	・ガソリン価格は更なる上昇が見込まれているが、食料品でもパスタなどメーカーからの卸値上昇が迫っており、景気状況は悪化する。
	スーパー（店長）	・1次産業が中心の地域であるが、農作業でも石油製品が多く使われているため、「1バレル130ドル」などのニュースが飛び込むと、消費者は一気に財布のひもを締め始める。ガソリン価格の高騰が原因となり、景気は悪くなる。
	コンビニ（エリア担当）	・ガソリン代などいわば固定費的な支出が、生活費に占める割合が高まっており、今後も更に高まることが想定される。そのため、それ以外の消費に回することは考えにくい状況である。
	コンビニ（店長）	・タスポの導入によりコンビニでのたばこ販売量は伸びているものの、食料品や雑貨など他の商品については数字が悪化しているなど、原油価格の高騰や、建設関係を始めとする企業の利益率の縮小を背景に、景気はやや悪い方向に向かう。得意先からも「今年は厳しい」という話しか聞こえてこない。
	衣料品専門店（店長）	・天候によってはどこかで忙しくなる時期も来るが、長続きしないことから、総じて来客数は少なくなるものと悲観的にみている。
	乗用車販売店（経営者）	・消費者ニーズに合った価格帯でなければ、売上、利益を確保するのが難しい情勢になっている。当地域では車両の保有台数の減少も始まっているため、販売、整備共により一層厳しさが増してくる。客に受け入れられるような企業努力を続けていく。
	乗用車販売店（従業員）	・生活必需品が相次いで値上げしている一方で、所得は増えないため、生活が苦しくなる。
住関連専門店（経営者）	・ガソリン価格の上昇が最大の悪化要因である。配送費も値上げになるが、販売価格には転嫁できない。	
その他専門店〔食品〕（経営者）	・中元ギフト対策を立案中であるが、単価の引下げなどで売上は減少するとみている。パートの雇用契約の打切りなども検討している。	

その他専門店〔酒〕 (経営者)	・夏のビール商戦、中元商戦に向けて、多少なりとも消費者の購買意欲の向上を期待したいところであるが、ガソリンの更なる値上げなどの影響により、消費者の生活防衛が高まる不安は否めない。	
高級レストラン(経営者)	・年金問題などで将来に不安を抱えているため、財布のひもは固くなっていく。また、物価の上昇で自由に使えるお金も減っているなど、良い事は無い。1～2年経たなければ元には戻らない。	
一般レストラン(経営者)	・物の値段が上がり、売る側も買う側も苦しんでいる。今後も値上がりは続くものとみられ、景気は減速に向かう。	
観光型旅館(経営者)	・7月以降の入込は平年並み、もしくは微減であり、電話による問い合わせもやや少なく、今月と比べればはるかに悪い。固定客ではなく、広告などによって動く客が目につく。	
観光型旅館(経営者)	・田舎では車は生活必需品であり、ガソリンなどの値上げが家計を圧迫している。その結果として、遠出をする宿泊観光は控えられる。	
都市型ホテル(経営者)	・建設関連団体の総会が当ホテルで開催されているが、参加者などの話では、「公共事業の減少もあり、今後の業績は非常に厳しい」との見通しを持っており、当ホテルでもその影響を受ける。	
都市型ホテル(スタッフ)	・全体的に客が動いていない状況の中で、一部のエリアに大型店舗が開店するなどの影響もあり、駅前など中心地には客が来る回数も減っていく。	
都市型ホテル(スタッフ)	・当ホテルから200メートル以内に、200室規模の全国チェーンビジネスホテルが3か月以内に2軒オープンするなど、宿泊部門はますます厳しくなる。	
都市型ホテル(スタッフ)	・建設業界などが不安定なため、今後のホテル利用に影響が出る。	
都市型ホテル(スタッフ)	・原油高に伴う原価の上昇が足かせとなり、あらゆる商品の販売がこれまで以上に難しくなる。	
遊園地(経営者)	・夏から秋にかけて大型のアウトレットモールが2軒オープンするなど、客の分散化が進む。	
悪くなる	商店街(代表者)	・6、7月の予約状況からすれば、現在よりも落ち込む状況になる。
	百貨店(販促担当)	・北京オリンピックの開催時は来客数が減少する。また、猛暑になるとの予想もあり、客足への影響が懸念される。
	スーパー(経営者)	・ガソリン高騰により、客は最寄りの店舗で買物をする、買上点数を減らすという行動に出ており、来客数は3%の減少、客単価は3%の低下となっている。今後もガソリン価格は更に上昇することから、客単価の低下傾向はますます強まっていく。
	スーパー(経営者)	・原油高、穀物高、物価高の大きな流れの中で、当店の商品も値上げが進んでいるが、販売価格への転嫁には時間が掛かる。また、当地域は建設業が中心産業であるが、深刻な建設不況は今後も続く。
	スーパー(店長)	・商品の値上がりが続く、また、ガソリン代も値上がりしていることから、消費は冷え込んでいく。
	コンビニ(経営者)	・来月もガソリン価格は上昇することから、客単価の低下傾向は続き、不景気になっていく。
	コンビニ(経営者)	・客単価が下がり続けており、5月は前年12月と比べて70円程度も下がっている。ゴールデンウィーク後でお金が無いことのほかに、石油などの物価が上昇していることの影響も大きい。特に、高齢者は年金や医療制度の問題が先行き不透明なため消費が抑制されているが、このような傾向は今後も続き、実感はますます厳しくなっていく。
	衣料品専門店(経営者)	・客にはマイカー通勤をしている人が多いが、「ガソリン価格がどこまで上がるか分からないような状態では、洋服などの購入は控える」という話が多く聞かれる。
	衣料品専門店(店長)	・来月から、また灯油やガソリンが値上がりするため、ますます消費は冷え込み、洋服にかかる金額も詰められる。
	乗用車販売店(経営者)	・個人は生活防衛に、法人は自社製品の値上げやコスト低減に苦慮しているが、諸物価の上昇は当面続くものとみられ、新型車以外は営業成績の伸びを期待できない状況である。底を打ったような感覚は、まだ得られていない。
	その他飲食〔弁当〕 (スタッフ)	・原油高に伴うガソリン価格高騰のほかに、小麦などの値上がりもあり、1か月ごとに販売価格に上乗せしていかなければならない状態では、2、3か月先の景気は悪化する。

		タクシー運転手	・最近では短距離の乗客ばかりであるが、道路交通法の改正により後部座席のシートベルト着用が義務付けられるため、短距離の乗客からも敬遠されるおそれがある。また、高齢のドライバーにとっては、もみじマーク表示の義務化も客離れの要因になりかねない。
		観光名所（職員）	・前年の同時期と比べて予約状況が悪く、予約の無いフリー客の入込も減少傾向である。
企業動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・現在の悪い状況からすれば、住宅需要が上向く。
		通信業（営業担当）	・東北の夏祭りやオリンピックなど、業界が活性化しそうな要因がいくつか見受けられるため、このチャンスを生かせれば、波及効果が及んでくる可能性がある。
	広告業協会（役員）	・このところマスコミ媒体への広告発注が遅くなり、通常は3か月前に申し込むが、最近では1か月前にどっと発注がくる。それだけ空きがあるということでもあるが、来月以降は、ボーナス商戦、秋のショッピングセンターオープンなどがあり、告知広告の伸びが期待される。	
変わらない		土石製品製造販売（従業員）	・原油高騰の影響が続く限り、景気の回復は見込めない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・先行き6か月のめどが立たず、上半期は絶望的な状況である。取引先はかなり計画を絞り込んでいる様子であり、発注は納期が無視されているため、短納期化がますます進み、残業代などの経費が増加し利益が出ない。今後は固定費の変動費化を進めなければならない。
		経営コンサルタント	・原材料高と販売価格がバランスしない限り、不況感は消えない。
		司法書士	・地方では民間企業勤務者の新築住宅需要に勢いが無く、それに比例して住宅業界の冷え込みは厳しくなる。
		その他企業〔管理業〕（従業員）	・給料は上がらず、出費だけが増えるため、景気は良くならない。
やや悪くなる		農林水産業（従業者）	・りんごなど果樹の成育は天候にも恵まれ順調であるものの、生産資材の値上がりの影響が大きいいため、状況は厳しくなっていく。
		農林水産業（従業者）	・さくらんぼなどの果樹が、前年より収穫量が増える見込みであり、値崩れが予想される。
		食料品製造業（経営者）	・ガソリンの値上げで、個人消費が更に冷え込む心配がある。
		食料品製造業（総務担当）	・原材料、資材の価格上昇と、節約意識を持つ消費者の買い控えで、売上と収益性の両面で一層厳しくなる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・原油高の影響で、また6月から印刷用紙代の値上げがあり、受注料金を上げざるを得ないが、取引先は発注量を減らすようするため、受注に悪影響があることは間違い無い。
		建設業（企画担当）	・製造業の設備投資計画が多く、量的にはプラスであるものの、物価高騰の影響はしばらく続くものとみられる。発注側は、物価上昇分を見積りに織り込んで提出するよう指示されているが、厳しい競争環境のなかでどれだけ織り込めるかは疑問であり、質的には大きなマイナスとなる。
		輸送業（経営者）	・当社の経営努力の限界を超えるコストの増加となっており、料金の値上げ交渉を積極的に進めていこうとしているが、交渉がスムーズに進むような状況ではない。
		公認会計士	・石油の高騰による影響がすべての業種に波及してくる。特に、製造業、小売業、建設業では原材料の高騰による収益悪化が予想される。
悪くなる		食料品製造業（経営者）	・ガソリンを含む物価高が、ますます進行していく経済の流れの中では、現状維持すら難しい。
		出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・地場の各企業は、原材料の高騰などの影響により収益が悪化しているため、交際費や広告宣伝費を削減している。そのため、今後の受注量も落ち込み続けていく。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・北米市場の悪化による輸出の低下とともに、円高の定着が懸念される。さらには、不採算製品の増加もあり、当面は減益の状態になる。
		広告代理店（経営者）	・印刷用紙代は前年10%上昇したのに引き続き、この6月にも15%の値上げが予定されているが、価格に転嫁できない部分が多いため、利益が更に圧迫される。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・取引先における原材料高騰の影響が、当社の業務にも影響する。
雇用	良くなる	-	-

関連	やや良くなる		
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・多数の取引先企業を訪問しているが、拡大基調の話はほとんど無く、コスト削減の話題ばかりである。
		人材派遣会社（社員）	・企業の採用意欲が増すように見受けられない。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・企業の採用意欲が低下している。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率が、ここ2か月は低下傾向で推移している。
		職業安定所（職員）	・建設業では、公共事業の減少や新規住宅着工の遅れ、減少から、解雇者が発生、又は解雇を検討している会社が見られる。一方で、新規に事業を開始、拡充するとして、求人申込をする会社もあり、業績の格差が広がっている。
悪くなる	人材派遣会社（社員）	・大口取引先が、経営統合等により派遣オーダーを大幅にカットするとの意向もあり、業績に急ブレーキが掛かる。	